

# 「痩せ菌」実用化へ前進

内臓脂肪が少ない人の腸内に多い「痩せ菌」として知られる「ブラウティア菌」について、弘前大学農学生命科学部の前多準准教授(43)らの研究グループが、

滅菌して粉状にしたブラウティア菌を手にする前多準教授

## 口から摂取・内臓脂肪減少

取り扱いやすいよう滅菌し粉状にしたものを口から摂取しても、内臓脂肪を減らし血糖値の上昇を抑える効果があることをマウスを使った実験で確かめた。食生活で生活習慣病を予防できる商品の開発など、弘大発の岩木健康増進プロジェクト(岩木健診)で見つかった「痩せ

### 弘大グループ確認

菌」の実用化に向けて一歩前進した。岩木健診は、弘大が弘前市岩木地区の住民を対象に約20年にわたり行っている大規模な健康診断。この健診で集めた膨大なデータを使って、2019年に弘大、東京大学、花王(本社東京)が共同で、ブラウティア菌が多い人ほど内臓脂肪が少ないことを確かめた。20年からはこの成果の活用を目指し、前多準教授らが研究をスタート。ブラウ

ティア菌を培養して増やし、加熱滅菌してから、フリーズドライ加工して粉状にした。通常食、高脂肪食、高脂肪食と滅菌したブラウティア菌を食べる三つのグループに分け、マウスに与えた。腸内細菌の分布が変わる11週間後、マウスの内臓脂肪量やかん、血液などを調べたところ、高脂肪食のみ食べていたマウスに比べて、菌も摂取していたマウスは、内臓脂肪、血糖値などが健康的であることが分かった。

また、高脂肪食のみのマウスの腸内では、ブラウティア菌がほとんど検出されなくなったが、同じ高脂肪食を食べていても菌も取ってれば、生きたブラウティア菌が腸内で増えていた。研究成果は、8月25日付で生物学の国際誌に掲載された。花王と共同で特許出願も済ませた。今後、食事指導に生かせるよう、どんな食材にブラウティア菌が含まれているかの研究を進める。

前多準教授は「弘前発の岩木健診で明らかになったエビデンス(根拠)を使って、世界に広がっていくかもしれない研究の発端に携わることができた」と話した。(伊藤ほなみ)

この画像は、当該ページに限って”東奥日報社”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。